

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dl/20130130-03.pdf>

最近になってその存在が知られるようになった、ダニ媒介性の新しい感染症「重症熱性血小板減少症候群」の患者が、今般、日本国内において報告されました。ここでは、重症熱性血小板減少症候群について、海外での情報等を参考に、現在までに分かっていることについて整理しました。

1 疾病名 重症熱性血小板減少症候群(Severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)

2 病原体

SFTS ウイルス（ブニヤウイルス科フレボウイルス属）

3 発生状況

・ 2009 年 3 月～7 月中旬にかけて、中国中央部で、原因不明の疾患が集団発生したことで本感染症の存在が明らかとなり、2011 年に原因ウイルスである SFTS

ウイルスが確認された（現在は7省で報告あり）。発生地域では、フタトゲチマダニ等のマダニが SFTS ウイルスを保有しており、このウイルスに感染した哺乳動物も見つかっている（動物の発症は確認されていない）。

・ 2009 年、米国ミズーリ州において SFTS 様疾患の症状を示す患者が 2 名発生し、患者検体から SFTS ウイルスと近縁なウイルスが検出された。 ・ 過去に日本を含む世界の他の地域での発生報告はない。

4 感染経路

- ・ フタトゲチマダニ等のマダニによる咬傷（ただし、ダニによる咬傷痕が確認できない場合も多い）
- ・ 感染患者の血液・体液との接触感染も報告されている。

5 症状

- ・ 発熱、倦怠感、食欲低下、消化器症状、リンパ節腫脹、出血症状
- ・ 潜伏期間は 6 日～2 週間 ・ 致死率は約 10～30%

6 検査所見：血小板減少（10 万/mm³ 未満）、白血球減少、血清電解質異常（低 Na 血症、低 Ca 血症）、血清酵素異常（AST、ALT、LDH、CK 上昇）、尿検査異常（タンパク尿、血尿）

7 病原診断

- ・ 血液等のサンプルからのウイルスの分離・同定及び RT-PCR によるウイルス遺伝子の検出
- ・ 急性期及び回復期におけるウイルスに対する血清中 IgG 抗体価、中和抗体価の有意な上昇の確認、又は、IgM 抗体の検出（現在、国立感染症研究所ウイルス第一部で実施可能 / 問い合わせ info@niid.go.jp）

8 治療

- ・ 特異的な治療法はなく、対症療法が主体となる。
- ・ 有効な抗ウイルス薬はない（中国では、リバビリンが使用されているが効果は確認されていない）。

9 予防法

- ・ 野外でダニに咬まれないようにする。 ・ 感染者の血液、体液、排泄物との直接接触を避ける。
- ・ ワクチンはない。

問 10 患者検体（サンプル）を取り扱う場合の注意点は何か？

答 患者の血液や体液にはウイルスが存在する可能性があるため、標準予防策を遵守することが重要です。

◇ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の疑いのある患者を診察した場合について情報提供をお願いした。

平成 25 年 1 月 30 日付け健感発 0130 第 1 号 厚生労働省健康局結核感染症課

<一般向け> 問 8 マダニに咬まれたことにより感染する病気は他にありますか？

答 a.日本紅斑熱、b.ライム病など多くの感染症がマダニによって媒介されることが知られています。

また、ダニの一種であるツツガムシによって媒介される、c.つつが虫病などもあります。

上記疾患の日本国内での年間報告数はそれぞれ a.180 件、b.10 件、c.400 件程度です。

